

演題 審美補綴に必要な天然歯形態と基本三形態の類似性

抄録

審美補綴を完成に導く要因として、歯牙形態がもっとも大切と考える。健康的で、美しい顔貌を含めた口腔の回復は、歯牙排列の位置関係（Positioning）であり、個々の天然歯のもつ歯牙形態（Morphology）、及び表面性状（Surface, Characterization）を再現することである。

以上は、表面的に見える美しさを司る要因であるが、歯周組織の健康を取りもどし、かつ維持することも、審美補綴では欠かすことのできない事である。それらもまた天然歯牙の形態を再現することに有ると考える。

よって、天然歯形態には、補綴物に必要な全ての事柄が兼ね備えられている。

天然歯形態を様々な角度から観察し、美しい顔貌、及び健康的な歯周組織の美しさを創る為の補綴物がどのような形態であるかを考察する。

更に、天然歯はある法則に則り、基本三形態に分類する事が出来、それらの形態（円形、尖形、方形）は類似性を持つ事を解説する。

大阪セラミックトレーニングセンター

片岡繁夫

略歴

大阪セラミックトレーニングセンター 主宰

有限会社片岡セラミック 代表

I V O C L A R社国際インストラクター

1972 行岡医学技術専門学校歯科技工士科卒業

1984 大阪セラミックトレーニングセンター開校

1989 (有)片岡セラミック開業

1994 大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校 開校

2006 (有)ZERO publishing 設立

2015 龍馬塾 開塾

著書

1993 Nature's Morphology 発刊

2005 Harmony 発刊

2022 Morphology 発刊